

沖島南の資源保護活動水域におけるシジミ稚貝の分布状況

孝橋 賢一・佐野 聡哉・井戸 本純一

1. 目 的

琵琶湖最大のシジミ漁場である沖島南漁場においては、新たな資源保護の取り組みとして保護区が設定されている。本水域では漁場改善の取り組みのため、湖底耕耘やヒメタニシの駆除が行われ、さらに2020年以降は親貝の移植保護や0.3mm稚貝の放流が行われている。そこで本水域における稚貝の生息状況を調査し、これら取り組みの評価を行うための基礎データとした。

2. 方 法

2023年12月14日に沖島南の保護区域の内外に設けた18の調査地点(図1)において、採泥面積(22cm×22cm)のスミスマッキンタイヤー型採泥器を用い、底質を採取した。採取した底質から井戸本¹⁾の方法により殻長0.3mm以上4mm以下の稚貝を抽出し、個体数密度を推定した。

3. 結 果

調査地点別の採集個体数密度を図2に示した。4mm以下の稚貝の生息密度は83~2,975個/m²の範囲にあり、南側および西側の調査地点で高くなった。とくに稚貝放流地点の南側にあるC5、C3およびD2、D3では2,000個/m²以上の生息密度となり、稚貝は放流場所から南方向に分散しているものと思われる。

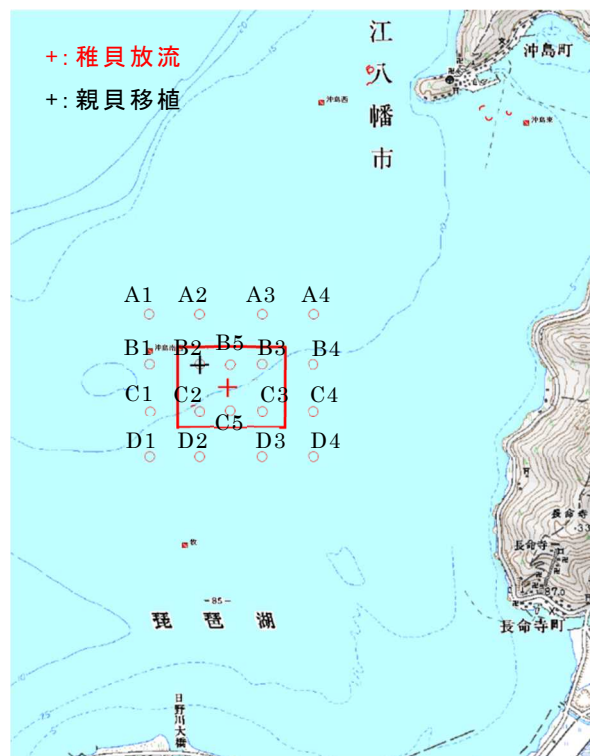


図1 沖島南漁場の保護区における調査地点



図2 沖島南漁場の保護区における稚貝の生息密度の分布

引用文献：1) 井戸本純一(2023)：砂礫サンプルからセタシジミ稚貝を選別するための抽出除去法2（令和5年度滋賀県水産試験場事業報告）